

1 学校として目指す授業

・体験や事実、根拠に基づいた学習活動を展開し、生徒自らが課題解決する授業 ・学習のねらいを明確にした計画的で見通しのある指導を行い、生徒が学習の意義や価値を実感できる授業

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
東京都平均と比較して、平均正答率には差がないものの、中位の人数が若干多い。各教科の学習が「好き」「わかる」「将来に役立つ」と考える割合が高い。「考えを深める」ことは高いが、「解決策を見出したり、方針を決めていく」ことには結びついていない、と考える割合は高い。受容することに傾聴してよく努力しているが、自ら工夫して行動し、結果に結びつけるような取組は不足している模様。	「食事」「睡眠」など、規則正しい生活ができてい。学校が「楽しい」と感じ、「友達関係に満足」していたり、「相談できる」「助け合える」と感じている生徒が多い。「他者の考えを尊重する」傾向が強いが、「自己肯定感の高さ」の割合が低い。受容的で、考えをぶつけ合うような経験を回避するような傾向があるのではないと思われる。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（1～3年生）

1年生では、各教科の理解度の平均は比較的高い。また、毎日学習に取り組む生徒が大半であった。自分に合った学習法を確立し、継続的かつ効率的な学習を習慣化させたい。
2年生では、教科間で理解度に差があることがわかった。また、家庭学習への取組は低く、1日に1時間以下、週に6時間以下が過半数であった。
3学年では、「得意と感じる」ポイントが低い。間違い直しや反復練習などの意識は昨年度より高まっているが、予習等の主体的に深める学習の取組はあまり伸びていない。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（2年生）

国語・数学の平均は市平均をわずかに上回った。
国語はC層が多く、D層が少なかった。「思考・判断・表現」の観点の「読むこと」「書くこと」の領域の学力定着を図り、D層からC層、C層からB層への底上げを図る。
数学はどの層も度数はほぼ同じであった。観点別では「知識・技能」を定着させてC層、D層を減らしたい。また、「データの活用」の領域が市平均を大きく下回っている。用語の理解や資料を正しく読み取ること、割合の問題の立式とその計算力の強化が課題である。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果	
新体力テストの結果より、どの学年も全国平均に比べ「握力」「立ち幅跳び」の数値が高く、「50m走」「1500m走」「反復横跳び」の数値が低いことがわかった。体育の毎授業の準備体操で補強運動を行っているため、「筋力」「瞬発力」が発達していると考えられる。また、校内の体力向上コーナーにハンドグripperを置き、日ごろから握力を鍛えられる環境作りを行ったことも一因と考える。一方で「スピード」「持久力」「敏捷性」に課題がある。今後も体育の授業で補強運動に脚力を高める運動を取り入れたり、ゲーム性のある活動を多く取り入れたりするなどして、課題の解決に向けて取り組んでいく。	

3 生徒の学力・学習状況等の課題

各学年とも教科の理解度の平均は比較的高いが、個々の理解度には教科間や学年間で差が見られる。また、家庭学習への取組にも個人差が見られる。さらに、授業で学習した内容について、疑問に思ったことや興味をもったことを主体的に調べる等の取組が、どの学年もやや低い傾向にある。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
- ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

教科間の理解度の差の解消のために、継続的かつ効果的な学習に取り組ませて、基礎力の定着を図りたい。主体的に学習に取り組む態度に課題があることもわかった。教員が生徒に興味を持たせる、疑問に思わせる活動を通して、生徒が自ら調べて理解を深めることや、自らの考えをまとめて発表すること等、主体的に学習に取り組む態度を培わせたい。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学 年	単元間、教科間の繋がりを意識させるために、振り返りの場面で既習事項や他教科の学習内容と比較させる。		思考力や表現力を高めるために、単元のまとめで記述問題に取り組ませる。		基礎基本と既習事項を確認し、自ら考えて問題解決ができる力を育てていく。		基礎的基本的な知識技能の習得を目指す。実験・調べ学習を通じて考察に必要な情報を収集する能力を育む。		毎回の授業や単元の最後に振り返りの時間を設け、自ら学習しようとする態度を養う。		少人数の鑑賞活動を増やし、作品のよさや美しさについて話し合いをする場面を設定する。		ゲームを取り入れ、スポーツの楽しさを体験させ、興味関心を高めさせる。課題に合わせて学びの場を工夫し基本的な技能の習得を徹底する。		ICT機器やGIGA端末を有効に活用し、生徒が「わかった」「できた」などの達成感が味わえる活動を行う。		少人数授業の利点を生かして、基礎基本の定着を図りつつ、英語で表現する機会を増やしていく。		各道徳項目について考えさせると共に、生活とのかかわりについて考えさせ、内容を深める。☑	
2 学 年	基本的な知識技能の定着を重視した上で、主体的創造的に表現し、発表する活動を行う。		個々の生徒が意欲をもって授業に臨むことができる取組を工夫する。自信と向上心を育む取組を工夫する。		基本的な知識・技能を定着させ、問題を解決する力を身に付けさせる。記述を通して思考力や表現力等を培う。		基礎的基本的な知識技能の習得を図り、自然の事物現象を考察し、わかりやすく他者に伝える力を育む。		基本的な技能や知識の習得をもとに、音楽の授業を通して、表現力を身に付け、達成感を味わうことができる活動を行う。		個別指導で技法を丁寧に教え、技術力や発想力を高める活動をする。		課題に合わせて学びの場を工夫し、基本的な技術の獲得を徹底させる。また、ゲームを多く取り入れスポーツの楽しさを体験させる。		さまざまな情報の中から最適なものを自身で選択し、正確に他者に伝える力を高める。		会話活動やスピーチにおいて自分事として取り組める課題を設定し、タブレットの効果的な活用を通して主体性を高める。		教材を通して考えさせた各項目の内容を身の周りの生活と関連付けて捉えさせる。	
3 学 年	実践的に知識技能の定着を重視した上で、主体的創造的に粘り強く考え発表する活動を行う。		学習内容の定着を図るために小テストを実施し、単元のまとめで記述問題に取り組ませる。		各分野の基礎基本事項の定着を継続して大切に、主体的に考える力を育てていく。		基礎・基本の定着を図り、自らの課題を解決できるようにする。真実を自分で確かめることができるようにする。		音楽の知識や経験、表現をもとに能動的な音楽活動し、達成感を味わい、生涯にわたり音楽を愛好する心情を身に付ける。		生徒自らが計画を立てて制作できるように、時間を意識するように促す。		課題に合わせて学びの場を工夫し、基本的及び発展的な技術の獲得を目指す。話し合いの場を増やし持ち味を活かしてチームプレーができるようにする。		生活の中の課題に、どのように解決していくのが適切か、判断できる力を身に付ける学習に取り組む。		何を、どう、発信すればよいかを考えるなど、解決方法を自ら模索するような課題設定を工夫する。		教材を通して、考えた道徳項目を実生活の中に反映できるように意識させる。	